

速報

道仏北遺跡発掘出土品展

平成20年1月12日～4月20日

宮代町郷土資料館



開催にあたって

道仏北遺跡は道仏土地区画整理事業に伴い平成17～19年度にかけて2回に渡り発掘調査が実施され、多くの成果をあげることができました。特に宮代町の他の遺跡では例の少ない縄文時代前期前半から中葉（約6,000～5,500年前）にかけての住居跡などがまとまって検出されたことは、宮代町の歴史に新たな1ページが加わる発見といえます。

今回の展示では、このように貴重な道仏北遺跡で出土した貴重な土器や石器を一堂に展示します。併せて、宮代町で発掘された最新出土品についても展示いたします。ぜひご覧下さい。



航空写真（南側から）北側の工事現場は県道蓮田杉戸（春日部久喜線）線。平成15年に埼玉県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が行われた。

凡例

- 1 本書は平成20年1月12日から4月20日にかけて開催される企画展「速報 道仏北遺跡発掘出土品展」の展示図録です。
- 2 本書並びに展示した写真は当館学芸員河井伸一と青木秀雄が撮影いたしました。
- 3 本展の企画及び図録の編集は河井が担当しました。なお、展示については資料館職員等が協力して行いました。

道仏北遺跡の位置

道仏北遺跡は宮代町の中央やや南側に位置し、標高 7.5 m の台地上に立地します。遺跡の東 700 メートルには現在古利根川が流れており、この河川の影響により遺跡の所在する台地上には自然堤防の粘土質の土が覆っています。道仏北遺跡の西側の谷を隔てた台地上には道仏遺跡があり、区画整理事務所建設に伴い発掘調査が実施され、古墳時代後期（約 1,500 ～ 1,400 年前）の住居跡が多数発掘されており、大集落があったことが確認されています。また、南側の低地を隔てた台地上には姫宮神社古墳群があり、6 世紀前半から中葉（1,500 ～ 1,450 年前）の古墳群であることが出土したハニワの形態から明らかとなっています。

道仏北遺跡の発掘調査

道仏北遺跡は道仏土地区画整理事業にともない、平成 17 年度、平成 18 ～ 19 年度の 2 回延べ 8 か月に渡り発掘調査が実施されました。発掘調査の結果、平成 17 年度には土坑（当時の人々が掘った穴。貯蔵穴や落とし穴など）が 2 基、平成 18 ～ 19 年度には住居跡 21 軒、土坑 183 基、炉穴（屋外の調理場）9 基が発掘されました。特に縄文時代早期後半（約 7,000 年前）から前期後半（約 5,000 年前）にかけては、宮代町有数の集落が形成されていたと推定されます。住居跡は台地に沿いほぼ直線状に並んでいたようです。今回の発掘調査では集落のほぼ全体を発掘することができたため、当時の縄文ムラの様子が明らかとなりました。また、古墳時代中期（1,600 年前）の住居跡も発掘されていますので、この時代にも集落が営まれていたようです。



調査区周辺図・発掘調査地点図

第1号住居跡

調査区の南側で検出されました。周囲は削平されており僅かに住居跡の掘り込みが確認されました。炉跡は1箇所、明瞭な柱穴（はしらあな）は1本のみ検出されました。土師器（古墳時代の素焼きの土器）の埴（かん）も出土しています。古墳時代中期（約1,600年前）の住居跡と推定されます。



第2・21号住居跡

調査区の中央東側で検出されました。時期の異なる2つの住居跡と土坑の重複がある遺構と推定されます。最も古い遺構は中央部の土坑（第180号土坑）で縄文時代早期後半（約7,000年前）の条痕文土器が出土しています。その後、縄文時代前期中葉（約5,500年前）に四角形の住居跡（第21号住居跡）が造られ、最後に縄文時代前期後半（約5,000年前）に楕円形の住居跡（第2号住居跡）が造られました。遺物は第180号土坑から条痕文土器が多量に出土しました。成形された四角柱型の石製品も出土しました。



住居跡中央第180号土坑出土状況

第4号住居跡



まが玉出土状況

調査区の中央南側で検出されました。住居跡の約半分は削平されていますが、北側の残存状況は良く多数の土器が見つかっています。東壁付近からは宮代町で初めて勾玉が発掘されました。やや丸型をした壺や高坏（脚のある皿）など祭祀的な遺物も出土しています。古墳時代中期（約1,600年前）の住居跡と推定されます。



前）の住居跡と推定されます。

第3号住居跡

調査区の中央付近で検出されました。台形の形をした住居跡で、縄文時代前期後半（約5,000年前）の諸磯式土器が出土しています。炉跡はやや東寄りで見出されました。



第5号住居跡

調査区の中央付近で検出された長方形の住居跡です。第6・7・12号住居跡と重複しており、第5号住居跡が最も新しい住居跡です。縄文時代前期中葉（約5,500年前）の黒浜式土器が出土しています。住居跡の確認状況としては中央部に四角形で黒色の落ち込みが見られ、小石が多量に混入されていました。出土遺物から縄文時代前期中葉（約5,500年前）の住居跡と推定されます。



第6・7・12号住居跡

調査区中央の第5号住居跡の北側に位置します。第6号住居跡は第12号住居跡の上に貼床を行って床面としています。時期は縄文時代前期中葉（約5,500年前）と推定されます。第7号住居跡は重複する住居跡の中で最も北側に位置します。南北に長軸をとる楕円形の形態をしており、中央部に炉跡が存在します。出土遺物から縄文時代早期後半条痕文期（約7,000年前）の住居跡と推定されます。第12号住居跡は第6号住居跡と第5号住居跡の間に位置し、第6号住居跡の貼床下から第12号住居跡の炉跡が検出されています。断面播鉢状を呈すると推定されます。出土遺物から縄文時代早期後半（約7,000年前）の住居跡と推定されます。



最も奥の住居が第5号住居跡、手前から第7・6・12号住居跡

第7号住居跡炉跡付近から出土した条痕文（鶴ヶ島台式）土器出土状況



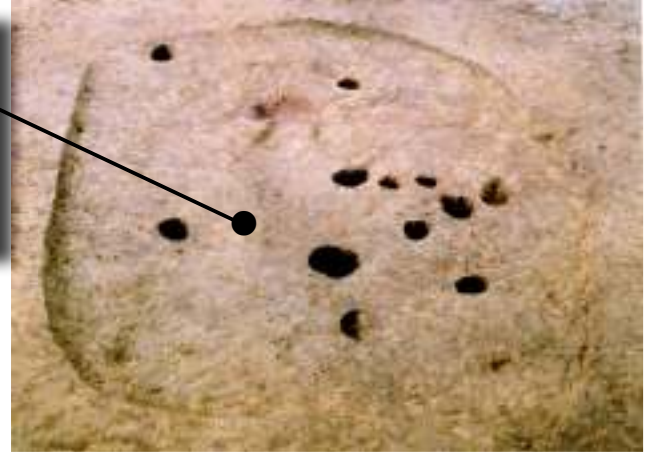
第 8 号住居跡

調査区中央に位置します。概ね正方形をしており、炉跡は北側壁付近にありました。覆土上層から大型の土器片がまとまって出土しました。出土遺物から縄文時代前期後半（約 5,000 年前）の住居跡と推定されます。



第 9 号住居跡

調査区中央に位置します。楕円形を呈する小型の住居跡です。北西側に炉跡がありました。覆土は黒色土で、床面は貼り床が顕著でした。この住居跡は平成 8 年度にも一部が調査されており、コップ型の土器がほぼ完形で発掘されています。出土遺物から、縄文時代前期中葉（約 5,500 年前）の住居跡と推定されます。



第 10 号住居跡

調査区東側に位置します。正方形を呈します。この遺跡で最も大型の住居跡です。覆土は黒色土で主な柱穴は 4 本で構成されます。炉跡は北西側壁付近で 2 か所確認されました。中央部の床面は皿状に落ち込んでいます。垂飾（ペンダント）、石皿、石鏃、石斧などが出土しました。出土遺物から縄文時代前期後半（約 5,000 年前）の住居跡と推定されます。



第 11 号住居跡

調査区中央やや北側の第 9 号住居跡に近接し位置します。長方形を呈する小型の住居跡です。本住居跡は、炉穴と重複しますが炉穴の方が新しく造られています。出土遺物から縄文時代早期後半(約 7,000 年前)の住居跡と推定されます。



第 14・16 号住居跡

調査区北側に位置します。当初 1 軒の大型の住居跡と推定されましたが、調査の結果、2 軒の重複であることが確認されました。

第 14 号住居跡は南側の住居跡で正方形を呈する住居跡です。中央北側に炉跡が 2 か所確認されました。中央部で住居跡より新しい土坑が確認されました。遺物は、黒浜式土器を中心に住居跡中央部で多く出土しました。

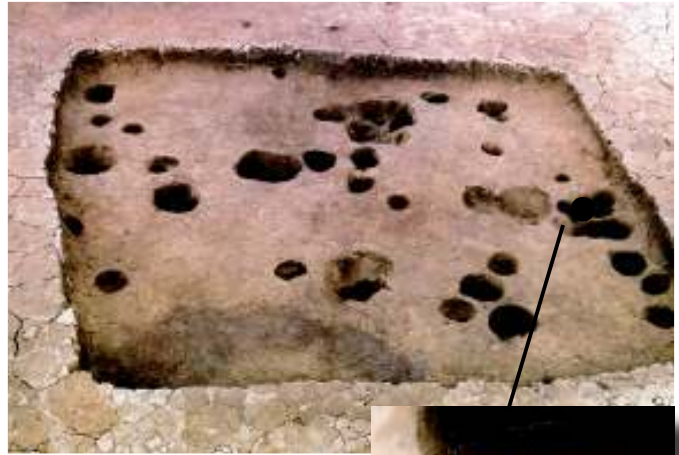


第 16 号住居跡は重複する住居の北側の住居跡です。第 14 号住居より 1 回り大きい住居跡で長方形を呈すると推定されます。中央部の床面がやや深く掘り込まれています。炉跡は住居跡の中央部と南側の 2 か所が確認されていますが、いずれも第 14 号住居跡に切られています。遺物は、花積下層式土器が出土しています。なお、床面は第 14 号住居跡の方が深く構築されています。このことから、第 16 号住居跡が縄文時代前期前半(約 6,000 年前)につくられ、その後、第 14 号住居跡が縄文時代前期中葉(約 5,500 年前)につくられたことが明らかとなりました。



第 15 号住居跡

調査区の北側に位置します。台形の住居跡で炉跡は北東側壁付近で確認されました。覆土から黒浜式土器が出土しました。柱穴内からも小型の浅鉢が検出されています。北西側には、住居跡より古い大型の土坑が確認されています。出土遺物から縄文時代前期中葉（約 5,500 年前）の住居跡と推定されます。



第 17 号住居跡



調査区北側に位置します。やや小型で台形状の住居跡です。覆土はローム混じりの暗褐色土で明瞭に遺構の存在が推定されました。柱穴内からは条痕文土器が出土しました。出土遺物から、縄文時代早期後半（約 7,000 年前）の住居跡と推定されます。

第 18 号住居跡

調査区北側に位置します。概ね 1 / 3 程度が発掘されました。恐らく長方形を呈する住居跡と推定されます。床面は西側が高く段差が確認されました。遺物は諸磯式土器が出土しました。出土遺物から縄文時代前期後半（約 5,000 年前）の住居跡と推定されます。



第 19 号住居跡

調査区北側に位置します。概ね 1 / 2 程度が発掘されました。恐らく長方形を呈する住居跡と推定されます。炉跡は調査区際で検出されましたが、住居跡の中央部に位置すると推定されます。遺物の出土はわずかですが、縄文時代前期中葉（約 5,500 年前）の住居跡と推定されます。

第 20 号住居跡

調査区東側に位置します。概ね 1 / 3 程度が発掘されました。恐らく隅丸長方形を呈する住居跡と推定されます。覆土は黒褐色土で、遺物は花積下層式土器や黒浜式土器、諸磯式土器が出土しています。时期的には、縄文時代前期前半（約 6,000 年前）の住居跡と推定されます。



土坑

土坑は合計 183 基検出されました。直径 2 メートルを超える大型の貯蔵穴状のものもありました。大型の貯蔵穴状の土坑は調査区北東側と南西側の台地縁辺部で検出されています。土坑の多くは縄文時代のものと推定されますが、一部古墳時代の土坑も確認されています。



第 30 号土坑

古墳時代の土坑で覆土上半部に粘土層が見られ、その直上に古墳時代中期の土師器がまとまって出土しました。

第 92 号土坑

縄文時代前期後半の円形の土坑です。覆土上層から諸磯式土器が出土しました。



宮代町発掘調査最新出土品展

宮代町では、ここ数年発掘調査や試掘調査の件数が多くなっています。それに伴い宮代町の歴史を解明する新たな遺跡や遺物も発掘されています。今回の展示では特に多くの成果のあった3遺跡について、最新の発掘出土品を公開いたします。

山崎遺跡

山崎遺跡では平成18・19年度に発掘調査が行われ、縄文時代後期（約3,500年前）の住居跡が2軒、古墳時代後期（約1,600年前）の住居跡が2軒、3,500年前の土器が捨てられた穴などの土坑や、7,000年前の屋外の調理場である炉穴などが発見されました。この他、縄文時代のペンダント（垂飾）や宮代町で初めて発見された土偶なども発掘されています。



伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡

伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡では平成12・13・14・15年度に発掘調査が行われ、戦国時代から江戸時代初頭にかけての城館跡が発掘されました。特に堀跡からは青銅製の和鏡や板碑、瀬戸美濃産や常滑産の陶器、地元で焼かれた播鉢・内耳土鍋などが多数出土しました。志野皿や唐津焼などの一部の陶器は1,600年前後に生産されたものと推定され、これら遺物が発見された堀は、『新編武蔵国風土記稿』などに記載される百間三千石の領主服部権太夫政季・政信父子の陣屋の堀と推定されます。



伝承旗本服部氏屋敷跡から検出された堀及び建物跡と和鏡



東条原宿屋敷遺跡から検出された鎌倉街道と推定される遺構とカワラケ

東条原宿屋敷遺跡

東条原宿屋敷遺跡では、平成14・17年度に発掘調査が行われ、鎌倉時代から戦国時代にかけての鎌倉街道と推定される溝や道路状遺構、工房跡などと推定される方形竪穴遺構、墓地などと推定される地下式坑、井戸などが発掘されました。特に溝や道路状遺構は伝承の鎌倉街道沿いで発掘されており、宮代町で初めて考古学的に鎌倉街道と推定される遺構が発掘されました。

◆ 展示品リスト

資料番号	資料	備考
1	堀之内式土器 (第12・16号土坑)	山崎遺跡 (H18)
2	条痕文土器 (第7号炉穴)	山崎遺跡 (H18)
3	条痕文土器 (第7号炉穴)	山崎遺跡 (H18)
4	条痕文土器 (第7号炉穴)	山崎遺跡 (H18)
5	土師器 (第1号住居跡)	山崎遺跡 (H18)
6	土師器 (第1号住居跡)	山崎遺跡 (H18)
7	堀之内式土器 (第23号土坑)	山崎遺跡 (H19)
8	堀之内式土器 (第13号土坑)	山崎遺跡 (H18)
9	堀之内式土器 (第13号土坑)	山崎遺跡 (H18)
10	堀之内式土器 (第13号土坑)	山崎遺跡 (H18)
11	堀之内式土器 (第13号土坑)	山崎遺跡 (H18)
12	堀之内式土器 (第13号土坑)	山崎遺跡 (H18)
13	堀之内式土器 (第3号住居跡)	山崎遺跡 (H19)
14	堀之内式土器 (第14号土坑)	山崎遺跡 (H18)
15	堀之内式土器 (第1号土坑)	山崎遺跡 (H18)
16	垂飾	山崎遺跡 (H18)
17	土偶 (第10号土坑)	山崎遺跡 (H18)
18	内耳土鍋 (方形竪穴状遺構)	東条原宿屋敷遺跡 (H17)
19	古銭 (元祐通宝)	東条原宿屋敷遺跡 (H14)
20	在地系播鉢 (第2号溝)	伝承服部氏屋敷跡 (H13)
21	在地系播鉢 (第2号溝)	伝承服部氏屋敷跡 (H13)
22	在地系播鉢 (第6号溝)	伝承服部氏屋敷跡 (H13)
23	中国産磁器	伝承服部氏屋敷跡
24	刀の縁 (第2号土坑)	伝承服部氏屋敷跡 (H14)
25	和鏡 (第6号溝)	伝承服部氏屋敷跡 (H13)
26	カワラケ	伝承服部氏屋敷跡
27	瀬戸美濃産陶器	伝承服部氏屋敷跡
28	土師器 (第7号住居跡)	道仏遺跡 (H9)
29	土師器 (第5号住居跡)	道仏遺跡 (H9)
30	土師器	道仏遺跡 (H9)
31	土師器 (第7号住居跡)	道仏遺跡 (H9)
32	土師器 (第1号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
33	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
34	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
35	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
36	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
37	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
38	土師器 (第30号土坑)	道仏北遺跡 (H18)

資料番号	資料	備考
39	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
40	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
41	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
42	土師器 (第4号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
43	条痕文土器 (第180号土坑)	道仏北遺跡 (H18)
44	条痕文土器 (第180号土坑)	道仏北遺跡 (H18)
45	条痕文土器 (第180号土坑)	道仏北遺跡 (H18)
46	第2・21号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
47	条痕文土器 (第2号住居跡)	地藏院遺跡 (H元)
48	条痕文土器 (第10号住居跡)	地藏院遺跡 (H元)
49	条痕文土器 (第5号炉穴)	逆井遺跡 (H7)
50	第3号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
51	第5号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
52	黒浜式土器 (第5号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
53	黒浜式土器 (第5号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
54	条痕文土器 (第7号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
55	第6・7・12号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
56	第8号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
57	諸磯式土器 (第8号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
58	第9号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
59	黒浜式土器 (第9号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
60	第10号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
61	諸磯式土器 (第10号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
62	諸磯式土器 (第10号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
63	諸磯式土器 (第10号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
64	諸磯式土器	前原遺跡 (S55)
65	諸磯式土器	前原遺跡 (S55)
66	第11号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
67	第14・16号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
68	黒浜式土器 (第14号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
69	花積下層式土器 (第14・16号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
70	花積下層式土器 (第14・16号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
71	第15号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
72	諸磯式土器 (第15号住居跡)	道仏北遺跡 (H18)
73	第17号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
74	第18号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
75	第20号住居跡出土遺物	道仏北遺跡 (H18)
76	加曾利B式土器	道仏北遺跡 (H17)

発行 宮代町郷土資料館
 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地
 TEL 0480-34-8882
 FAX 0480-32-5601
<http://www.town.miyashiro.saitama.jp>